

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900226		
法人名	医療法人社団 育生会		
事業所名	グループホームふかくさ(1階)		
所在地	京都府京都市伏見区深草西浦町8丁目19番地		
自己評価作成日	H30年5月10日	評価結果市町村受理日	平成30年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirvosyoCd=2690900226-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年7月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の「和」を念頭に、職員一同、ご利用者様と共に地域の和の中で、楽しみ、役割を持って生活出来るように心掛けています。母体が医療法人であり、常に病院と連携を取り、ご利用者様が安心して生活できるよう取り組んでいます。ご利用者様一人一人、性格や、出来る力は異なるので、その方の事を良く理解して、その方に合った声掛けやケアを提供出来るよう職員全体で常に話し合っ共有できるようにしています。常に地域の中の一員である事を意識して、自治会を通じて地域の行事に参加したり、施設での行事にボランティアとして参加して頂く等、支え合う関係を大切にしている。ご家族様が気軽に面会に来られ、ご利用者様と一緒に楽しく過ごして頂く時間や、少しでもご家族様自身が安心して頂けるよう、ご家族様や地域からも信頼して頂けるような施設づくりを今後も目指していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者の尊厳や接遇マナー、身体拘束、虐待等について研修や勉強会を実施し職員間で話し合う機会を多く持ち理解を深めています。利用者に対する言葉遣いや対応に細かい配慮を心がけており、利用者が安心できる環境を整えるよう努め一人ひとりを大切に支援しています。食事についても、利用者の声を聞きながら、好みの物や行事食等を考慮した献立を作り利用者と一緒に食材の買い物に出かけたり、野菜の下拵えや味付け、食器洗い等できることに携わってもらい、職員と同じテーブルを囲み談笑しながら食事を摂っています。時にはホットプレートでお好み焼きやたこ焼きを焼いたり、誕生日のケーキや水無月などのおやつも一緒に作るなど食べる楽しみを工夫しています。職員の関係性は良好で離職も少なく話し合いの場を多く持ち利用者本位の支援に向けて取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念「和」を元に、事業所独自の理念を作り全職員で、共有、実現出来るよう取り組んでいる。各職員の名札に事業所の理念を記載し、いつでも迷った時は理念に立ち返る事が出来るようにしている。	法人理念を玄関や各フロアに掲示し、ホームの基本方針や業務目標を記載したカードを職員其々が携帯し意識づけを図ると共に、新任入職時には方針や目標について説明し理解を得ています。常に笑顔を忘れず安らぎと利用者本位のサービスが提供できているかをフロア会議等で振り返りながら理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事には参加させて頂き施設での季節行事には、お声掛けし地域の方との交流を大切にしている。また、ご利用者様と一緒に近くのスーパーへ出かける等地域の方々と交流を大切にしている。	近隣の理美容院を利用したり、散歩やスーパーへの買い物時には挨拶を交わしています。回覧板等から地域の情報を得て町内の祭りや児童館祭り、お茶会、折り紙教室、認知症カフェ等多くのイベントに参加し、春祭りには子ども神輿が玄関先に停まってくれるなど交流を図っています。児童館の子ども達のダンス披露の他、手品や大正琴の演奏、フラダンス等ボランティアの来訪もあり地域との関わりが広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の相談件数も増えており、施設見学も兼ねて助言や必要があれば自宅にも訪問しサービスの紹介なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、ご家族様、地域代表者の方に、ご出席頂き、ご利用者様の様子、活動状況の報告を行い、感想、助言を頂きサービスの向上の取り組みに繋げている。	会議は家族や民生委員、女性会会員、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。ホームの状況やスライドショーで写真を見ながら利用者の暮らしぶりや行事等の報告をしています。参加者から花見や公園など外出先についてのアドバイスをもらったり、テーマを決め防災等の研修を行うなど有意義な会議となっています。内容は全家族に報告をしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録を提出時には、施設状況を伝え相談、アドバイスを頂き、また施設広報紙発行時には持参し施設アピールもしている。また、毎日ホームページを確認し、介護保険制度の現状を把握できるように努めている。	広報誌や運営推進会議の議事録を届けるなど役所に出向いた際や電話等で介護保険制度等のわからないことや相談事があれば聞いています。事業所連絡会や研修案内はファックスで届き、できる限り参加し良好な関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に、身体拘束の勉強会を行い全ての職員が理解出来るよう取り組んでいる。ご利用者様の心身の状況を把握しながら、適切な見守りやケアを提供出来るよう心掛けている。	法人主催の研修を受講した職員が資料を基に独自の資料を作成し職員に伝達しています。言葉による行動の制止等について話し合い、内容を会議や身体拘束委員会に報告し振り返りを行うことで職員の意識を高めています。玄関やエレベーターはロックしていますが、外に出たい希望があれば職員が付き添って出かけています。	

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に、勉強会を実施している。虐待の種類や起こる要因についても職員間で共通認識として持てるよう取り組んでいる。また、特に管理者は日頃の職員との何気ない会話の中からも、些細な変化に気付けるよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関する理解を持ち、ご家族様との面談時や来訪者のご相談で、必要な場合は、関連機関への橋渡しができるよう体制を整えている。また、定期的な成年後見人との面談時は様々な情報交換ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明し納得頂き契約し、入居後もご家族とは密に連絡を取り合い信頼関係が築けるよう日頃から努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見箱を設置しており、要望をいつでも記入して頂けるよう体制をとっている。また、定期的にご家族様へ普段のご様子(写真)をお送りする等、常にコミュニケーションが取れるよう心掛けている。定期的にアンケート調査を実施しご家族様のご意見を聞けるようにしている。	利用者からの要望は食べたいものや行きたい場所などの要望が多く食事や外出行事に繋がっています。家族には年1回のアンケート調査の他、2か月に1度写真付きの広報誌を送付し面会時には利用者の日頃の様子を伝え要望等を聞くようにしています。家族からの要望を受け音楽療法を行ったり、日々同じ衣類にならないよう単筒の整理の仕方を統一したり、アルバムを作成し各フロアに置き家族がいつでも見られるようにするなど意見や要望をサービスに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットにて日々の申し送り、定期的なミーティングにて情報、意見交換を行い改善に繋がっている。月1回の介護職員会議、法人会議にて管理者は報告、相談し運営に反映している。自己評価シートを活用し、管理者、職員で情報共有出来るようにしている。	職員からの意見や提案は自己評価シートを基にした面談時やフロア会議、介護職員会議、日々の業務の中で聞いており、会議前には議題を伝え意見を事前に出してもらっています。編み物のできる利用者が多いのでレクリエーションに編み物を取り入れたり、空いた時間を有効活用しミーティングの時間とするなど職員からの意見や提案は職員間で話し合い反映するように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	事業所内で、定期的な勉強会を行い、職員各自がスキルアップしていけるよう取り組んでいる。また、職員の知識、技能の向上が、ご利用者様の暮らしの質の向上に結び付くという観点を持ち職員は年2回の自己評価シートを活用し目標を明らかにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な社内研修の実施、外部研修への参加、新しい資格の取得等、福利厚生も確立しており、その事が職員のやる気にも繋がっている。		

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に、グループホーム協会の研修会に参加し意見交換する機会を設けている。近隣施設見学、事業所連絡会に参加し交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に築く関係は大切なので、まずはご利用者様に安心して頂けるよう「笑顔」を大切にしている。ご相談、お申し込みの段階で、ご本人、ご家族が困っている事、不安なお気持ちを慎重に時間をかけお伺いし納得して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が現在抱えている悩み、事業所やサービス内容に対してどんな思いを持っておられるか等、可能な限り理解し、どのように支援していただけるかを共に考えていけるような関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談時に何に困って何を必要としておられるか見極め私達ができる事をお伝えし適切なサービスの提供が出来る様支援している。費用面的な問題が出てくる事も多いので、その時は、ご利用者様、経済状況に応じた他のサービスも提案出来るように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者様を人生の先輩であると尊敬の念を持ち教えて頂きながら、支え合う暮らしが送れるよう馴染みの関係を作りながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には日頃から、施設行事等にも参加して頂けるようこまめに連絡を取っており、その都度、ご利用者様の近況を伝えている。また、面会時にはご要望をお伺いししやすい環境づくりに努めている。また、外出等ご家族様で過ごす時間も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の生活歴を把握し、ご入居後も馴染みの関係が継続出来るよう家族様とも協力し合い支援している。面会に来て下さった際には、ご本人様とゆっくりと過ごして頂けるよう、配慮している。	友人等の面会時には居室に案内し、椅子やお茶の用意をするなど馴染みの方との時間を大切にしよう配慮しています。自宅や洋食屋、馴染みの美容院、墓参り等家族と共に外出する際は、車いすの貸し出しや身支度、薬等事前の準備を行っています。近隣に住んでいた利用者にとっては外出先が馴染みの場所になることもあります。友人への手紙や年賀状を出すときはハガキの準備や投函等の支援をしています。	

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る事は、一人一人違うので、ご利用者様の得意な分野を活用し、遣り甲斐を持って生活して頂けるよう心掛けています。また、ご利用者様同士の相性やその時の状況を把握し職員が間に入り良好な関係が保てるよう見守り支え合うよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となっても頻回に病院に面会に行っている。法人のMSW、ご家族と連絡を取り合い退院後の受入先施設の確保、他サービス調整等も行っている。利用終了後も、ご家族様より問い合わせを頂いたり、良い関係が構築出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の想いを、普段のさりげない動作や言葉から受け止めるよう心掛けています。意思表示の困難な方に対しては、その方の性格や生活歴をしっかりと把握し、本人主体となれるような関わりが持てるよう努めています。	入居前、自宅で面談し本人や家族の意向、生活歴、趣味など聞き取り、わかるところは家族にもアセスメントに記載してもらっています。入居後会話の中で聞かれた言葉や把握困難な場合は様子や表情等から汲み取り、気づいたことや知り得たことを細かく追記し、会議の中で本人本位に検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時は、ご利用者様、ご家族様から今までの生活歴等、情報をお伺いし、適切なケアが提供できるように心掛けています。馴染みの暮らし方に関しては、時間と共に変化するので、定期的にご利用者様、ご家族様からお伺い出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の心身の状況は常に化する事を職員全体で共通認識として持っている。昨日出来ていた事が今日出来なくなるといった事も多くあるので、その変化に早く気づき情報共有する事を大切にしている。また、定期的にあセスメントを行いご利用者様の心身の状況を把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の思いや、ご家族様のご意向を聞きながら、日々の記録、アセスメントをもとに介護計画を作成している。状況の変化があれば必要に応じミーティングを行い、計画書の見直しをしている。	本人や家族の意向、アセスメントを基に作成した介護計画は、基本的に1ヵ月毎にモニタリングを行い6ヵ月毎に見直しをしています。利用者に変化があった場合は都度見直しをしています。見直し時には再アセスメントとサービス担当者会議を行い事前に聞いた家族の意向や医師の意見を反映させています。職員は其々の利用者の計画の内容を把握しており、計画に沿って日々の状況を記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々のご様子は個別ファイル、ケア記録等を活用しながら職員間で情報収集し共有している。また、申し送りノートを活用し、急な対応にも対処できるよう取り組んでいる。		

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族の状況、要望に応じて併設施設である小規模多機能施設と連携を取りながら柔軟なサービスが提供出来る様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事に参加させて頂いている。また、地域女性会ボランティアの方、近隣大学の学生の受け入れもし、交流を深めており町内の理髪店、花屋、コンビニも利用する等地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に以前からの、かかりつけ医の継続も出来る事も説明している。また、連携施設である病院の主治医が定期的に往診に来ており健康管理に努めている。入居後、京都久野病院以外の他病院への受診支援も行っている。	全利用者がホームの協力医に変更をしており、月1回の往診を受けています。緊急時は24時間連絡することは可能ですが、昼間に利用者の状態に変化があった場合は夜間の診察時間に受診をしています。皮膚科などの専門医については継続している利用者もあり家族が受診の対応をしていますが、家族が行けない場合は職員が対応することもあります。週1回の歯科往診もあり希望や必要に応じて治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しておりご利用者様の健康管理を管理者と共に行っている。必要に応じては協力医療機関へ連絡し、受診の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、管理者がこまめに病院へ面会に行き、ご利用者様が安心して入院して頂けるよう適切な働きかけを行っている。また、ご利用者様の心身の状況を常に把握すると共に、連携施設である病院の主治医、MSWと密に退院の時期等情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向、想いも踏まえた上で当事業所において出来る限りの支援をさせて頂く体制である。連携施設である病院の主治医と情報交換を共有し対応している。	入居時に重度化した場合の指針について家族に説明し、本人や家族の思いを考慮し支援したいと考えており、医療的な支援が必要となった場合は入院となることもありますが、それまでの期間はホームとして可能な限りの支援をしています。昨年度は看取り支援についての研修を行っており、今後においても具体的な内容の研修が必要であると考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し周知徹底しており、救急救命講習会等受講もしている。連携施設である病院が緊急時の受入先となっている。		

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。風水害を想定した訓練も同時に行う計画を立てている。ご利用者様にも参加して頂き、ご利用者様、職員共に災害の意識を高めるように心掛けている。	年2回昼夜想定で訓練を行っており、内1回は消防署立ち合いの下、通報や初期消火、避難誘導の訓練を行い、近隣の方にも案内し見学に来てくれる方もおり消防署のOBの参加もあります。備蓄については飲料水に加えて日々食材の在庫を多めに確保しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通じて、職員全体で、人としての誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを大切にしている。人生の大先輩である事を忘れず、どんな時も敬意を持って接する事を忘れないよう心掛けている。	年1回尊厳や接遇マナー等についての研修を受け職員は理解を深めています。身体拘束委員会の立ち上げに伴い勉強会の機会も増え職員間で日々尊厳を意識しながら言葉掛けや対応をしています。敬意を持って接することを基本とし、丁寧語で話すよう心がけ名前は苗字で呼ぶようにしています。不適切な言葉かけが見られた場合は都度注意をし、入浴介助等希望があれば同性介助で対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今ご利用者様は何を望んでおられるか、意思表示が困難な方は、本人ならどうしたいのか、といった本人主体となる考え方を念頭に、可能な限り本人の思いや希望を実現できるような関わりを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人それぞれ、性格も望む生活も違うので、性格や想いを把握できるように努めている。また、1日の流れの中で、ご利用者様1人ひとりのペースを大切にゆったりと居心地良く暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望に応じ町内の理髪店の方がその都度来所して下さったり、こちらから出掛けに行き白髪染めをされている。季節に応じた装いやお洒落が出来る様に、ご本人、ご家族のご要望を伺いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しく事が出来るよう、各自手洗い、衛生管理は徹底している。献立から料理作りまで、ご利用者様の希望をお聞きしながら準備をしている。下膳、食器洗いと、ご利用者様と一緒に楽しみながら教えて頂きながら行っている。	献立は利用者の好みや旬の野菜等を取り入れ、職員が立てています。魚や肉、野菜を業者から配達してもらい、他の食材や足りないものについては利用者と一緒に買い物に出かけ、野菜の下拵えや味付け、食器洗い等できることに携わってもらい、職員も一緒に食事を摂っています。ファミリーレストランや喫茶店での外食の他、餃子など好きなものを購入したり、手作りおやつやお好み焼き、たこ焼き等も楽しみなものとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量等、毎日、記載をしている。主治医と連携し定期的に栄養状態の確認も行っている。連携施設である病院の管理栄養士のアドバイスも定期的に受けている。		

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師、歯科衛生士から助言を頂き、適切な口腔ケアを実施出来るよう心掛けている。毎食後、見守り、必要に応じではお手伝いしている。また、毎食前には口腔体操を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様1人ひとりの排泄パターンを把握しオムツは使用しない方針でその方に合わせた声掛けや誘導をし、自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本としており、チェック表により全利用者の排泄パターンを把握し、個々のタイミングに合わせて声かけやトイレへの誘導をすることで入居時におむつを使用していた方も紙パンツや布の下着に移行するなど自立に向けた支援を行っています。排泄用品や支援方法については日々の申し送り等で情報交換し、其々の利用者に合わせて検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄パターンの把握をしている。食事にも食物繊維の多い食材を使い乳製品もおやつに提供する等、取り入れている。日々の散歩や身体を動かすレクリエーションを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、ご利用者様のご要望をお伺いし入浴を実施している。希望される方があれば、夕食後の入浴も柔軟に対応し入浴を楽しめるよう支援している。	入浴は平均週3～4回入ってもらい希望により毎日や朝風呂、夕食後に入る方もおり、身体的に問題がなければ可能な限り対応しています。湯は都度入れ替え柚子や菖蒲等の季節湯や入浴剤を使用し職員と会話を楽しんだり、歌をうたうなど楽しみながら入っています。拒否のある場合は家族に相談したり、相性の良い職員に声をかけてもらうなど無理のないよう入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの身体状況、意向に応じて居室や共有スペースでの休息を促している。夜間に安眠出来る様に生活リズムを整え支援している。日中は出来るだけレクリエーション、体操等、活動的な時間を作り安眠に繋がる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体で服薬介助の重要性を認識し業務あつたっている。服薬内容は個人ファイルに管理し何時でも確認出来るようになっている。症状の変化は記録に残しながら看護師に相談し主治医と連携しながら確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴など情報収集し日々の暮らしの中で個々の力に応じた役割が持てるよう支援をしている。また、新たな役割、楽しみを発見出来るよう日々努めている。		

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーやコンビニへの外出、近くの公園への散歩等、外出は日常的に行っている。天気の良い日は長距離歩行困難な方に関しては、車椅子で近くの喫茶店に出掛けたり外に出る機会が多い。地域の方とも協力し、お祭りにも参加している。	地域の行事に参加したり、気候の良い時期は隔日に散歩や買い物に出かけています。少人数で水族館に出かけたり、季節毎に初詣や桜の花見、紅葉見学等フロア毎に出かけ、現地で家族と落ち合うこともあります。また、日々郵便受けに新聞を取りに行ったり、植木の水やりやゴミ出し、玄関先のベンチでの外気浴等外に出る機会を多く持つようになっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当事業所にて預り金の金銭管理をしている。ご利用者様のご希望に応じて個別に買い物やお出掛けを楽しんで頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外線よりお電話頂き、いつもお話されている。日により、電話を掛けたいと話される日もあるのでその時は電話してもらっている。お手紙や年賀状のやり取りが続けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、リビング、浴室、トイレ等はバリアフリーになっており、ご利用者様は安全に過ごす事が出来ている。玄関には季節の花を飾り、リビング壁面には季節の花の貼り絵を飾りご利用者様、ご家族様に季節感を味わって頂いている。	季節の花を花瓶に挿し随所に飾ったり、花火や金魚、朝顔など利用者と一緒に作った作品を壁に貼り季節を感じられるよう工夫をしています。換気や掃除は毎日行い、手すりは利用者と一緒に消毒をし清潔保持に努めています。ソファを置き好きな場所でゆったりと過ごせるよう配慮し温湿度にも留意し快適に過ごせる共用空間を作っています。テーブル配置は動線や利用者の相性等により変更することもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様が過ごしたい場所で落ち着いてお過ごし出来る様、席の位置を考えている。限られた共用空間にソファを置いたり、併設施設の屋上にベンチを置き、天気の良い日は日光浴、夕方には夕涼み等に散歩がてら出かけたりもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様、ご家族様と相談しながら使い慣れた物を持参して頂いている。お仏壇に手を合わせる方等、ご利用者様が居心地良く過ごせるよう配慮している。また、少しでも住み慣れた環境を変えないよう工夫している。	各居室には洗面台が設置されており、入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうよう伝え、ソファやテーブル、筆筒、テレビ、カーペット等を持参され、動線なども考慮し家族と相談しながら配置をしています。仏壇や遺影、琴、編み物道具、CD、自身の作品等大切なものや趣味のものも傍に置き、その人らしい居室となるよう配慮しています。希望により布団で休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様が安全に過ごせるよう建物の可能な部分に手すりを設置している。ご利用者様の出来る力は1人ひとり違うので、しっかりと把握し、過度な介助にならないよう適切な介助を行えるよう心掛けている。		